

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 5 日現在

機関番号：32309

研究種目：若手研究（B）

研究期間：平成 22 年～平成 24 年

課題番号：22792215

研究課題名（和文） 妊娠期からみる育児期の妻の精神的健康と夫の関わり

研究課題名（英文） Mental health of the wife and a husband's support in child-rearing term from a view of pregnancy term

研究代表者

中島 久美子 (NAKAJIMA KUMIKO)

群馬バース大学・保健科学部・講師

研究者番号：50334107

研究成果の概要（和文）：

妊娠期及び産後の夫婦関係満足度の変化と妊娠期の妻が満足と感じる夫の関わりに影響する要因を明らかにすることを目的に、妊娠期と産後の2回、質問紙調査を実施した。結果、妊娠期の妻が満足と感じる夫の関わりに影響する要因として、妻の認識には、妻の就労状況、家族構成、夫の休日、夫の認識には、妊娠の成立、妻の就労状況、夫の帰宅時間が確認された。夫婦共に妊娠期の夫婦関係満足度は、産後の夫婦関係満足度に影響することが確認された。以上のことから、妊娠期の妻が満足と感じる夫の関わりに影響する要因に注目し、妊娠期から夫婦関係の満足度を高める支援の必要性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is clarifying factors of husband's support for wives satisfaction and the changes of marital relationship during pregnancy and delivery. Question paper investigations were conducted twice times, which were during pregnancy and after the delivery. It was found from the investigations that a wife's job situation, family structure, and holiday of husband influence the wives satisfaction by the husband's supports in a wife's reorganization, while formation of pregnancy, a wife's job situation, and husband's going-home times influence the wife satisfaction by the husband's supports in a husband's reorganization. It was pointed out that a marital relationship during pregnancy influences a marital relationship after the delivery. Therefore it was concluded that factors of husband's support for wives satisfaction during pregnancy should be considered and advises which enhance the satisfaction of a marital relationship should be given from the pregnancy term.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	800,000	240,000	1040,000
2011 年度	600,000	200,000	800,000
2012 年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	560,000	2,360,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：母性・女性看護学 夫婦関係

1. 研究開始当初の背景

近年の都市化、核家族化や少子化により、

主たる養育者である母親は孤立した状況に陥りやすい。妊娠の受容に対して戸惑いや不

安をもつ妊婦や望まない妊娠をする夫婦もある。こうした多様な夫婦の背景や妊娠経過により、女性は妊娠期を心理社会的なストレスを抱えた状況で過ごし、出産、育児に移行すると考えられる。そのため、妊娠・出産・育児は、女性一人が担うものではなく、妊娠期から夫婦が協働することが求められ、妊娠期から妻の精神的健康を促す夫の関わりが重視されるようになったといえる。

そこで、妊娠期の妻の精神的健康を促す夫の関わりを夫婦の認識からアセスメントできる「妊娠期の妻への夫の関わり満足感尺度」の開発を試みた。妊娠期における妻の精神的健康を促す夫のかかわりを構成する概念は以下の3つ、「システムの安定（道具的領域）」、「夫婦の親密性の発達（精神的領域）」、「親準備性の発達（胎児への関心）」であり、この概念に基づき、妊娠期の妻の精神的健康をアセスメントすることができると考える。

一方、欧米の調査では、子どもをもつ夫婦の関係性が悪化し、妻の妊娠期における満足感の出産後には低下すると報告されている(Belsky)。我が国においては、夫婦関係について配偶者への満足度、結婚生活の評価、夫婦関係の親密性という3点を出産前後で見たところ、いずれも妻・夫ともに出産後で低下しており、夫以上に妻の低下の度合いが大きいと報告されている。これらの先行研究から、子どもを持つことに伴い夫婦関係が低下することが予測される。このような状況を阻止するためには、妊娠期から良好な夫婦関係を築いていくことが重要と考える。また、妊娠期から、妻が夫婦間のコミュニケーションがとれていると認識すること、また夫と感情の共有や役割調整の話し合いがもたれていると認識することが、妻の精神的健康を高めるうえで重要と考えられる。

2. 研究の目的

妊娠期を視点として、妊娠期から育児期に一貫した「妻の精神的健康を促す夫の関わりを高める」看護援助を提供する指針を与えることが本研究の目的である。

- 1) 妊娠期の夫婦を対象に、妊娠期の妻が満足と感じる夫の関わりに影響する要因について明らかにする。
- 2) 妊娠期と産後1・2か月における夫婦関係満足度の変化を明らかにする。

3. 研究の方法

1) 妊娠期の妻が満足と感じる夫の関わりに影響する要因の検討

(1) 対象：母子保健センターの出産準備教室（母親学級および両親学級）に訪れた第1子妊娠期（妊娠中期～後期）の夫婦300組とする。

(2) 方法

①A 県内の母子保健センターの出産準備教室（母親学級および両親学級）に訪れた妊婦（妊娠中期～後期）とその夫に対し調査協力依頼文書を用いて研究の概要（主旨、方法、倫理的配慮等）を説明し、研究協力を依頼する。

②研究参加の意思を示した夫婦に対して調査票を配布する。

③出産準備教室に妊婦のみ参加の場合は、夫への調査協力依頼文書と調査票は妻が持ち帰り、自宅で夫に任意回答していただく。

④研究参加の意思を示した夫婦のみが回答し、回収をもって研究調査への同意とみなす。回収は、郵送法とする。

(3) 調査内容：

①属性：妊婦および夫の年齢、就労状況、同居家族、夫の帰宅時間、一日の使い方、

②結婚の契機、計画妊娠の有無、妊娠判明時の気持ち、妊娠出産の援助者

③「妊娠期の妻への夫の関わり満足感尺度」（「妻用の尺度」、「夫用の尺度」）

④夫婦関係：夫婦関係満足度を測定するために、Norton(1983)のQMI(Quality Marriage Index)

2) 妊娠期と産後1・2か月における夫婦関係満足度の変化

(1) 対象：第1次調査（妊娠期）において回答の得られた産後1・2か月の夫婦とする。

(2) 方法

①第1次調査（妊娠期）の際に、産後に継続して調査協力に同意の得られた夫婦に対し、調査協力依頼文書を用いて研究の概要を説明し、調査票を郵送にて配布する。

②研究参加の意思を示した夫婦のみが回答し、回収をもって研究調査への同意とみなす。回収は、郵送法とする。

(3) 調査内容：

① 属性：産後の援助者、里帰りの有無、妊娠期の産科的合併症、出産時の状況

② 夫の家事育児行動尺度

③ 夫婦関係満足度「QMI」(Quality Marriage Index)

4. 研究成果

1) 妊娠期の妻が満足と感じる夫の関わりに影響する個人的・社会的要因

妊娠中期の妻の認識では、勤労妊婦は主婦よりも($p < 0.05$)、また、核家族は拡大家族よりも($p < 0.05$)、夫の休日が週2日では週1日よりも($p < 0.05$)夫の関わりに対する妻の満足感が有意に高かった($p < 0.05$)。一方、夫の認識では、自然妊娠は不妊治療後よりも($p <$

0.05)、また、妻が勤労妊婦では主婦よりも($p < 0.05$)、夫の帰宅時間が21時前は21時以降よりも($p < 0.05$)夫自身の関わりに対して妻が満足しているだろうという夫の認識が有意に高かった。つまり、妊娠中期の妻が満足と感じる夫の関わりに影響する要因として、妻の認識には、妻の就労状況、家族構成、夫の休日、夫の認識には、妊娠の成立、妻の就労状況、夫の帰宅時間が確認された。

2) 妊娠期と産後1・2か月における夫婦関係満足度の変化

妊娠期の妻の「QMI」の高低群と産後の「QMI」の高低群との間に有意差が認められた($p < 0.05$)。妊娠期の夫の「QMI」の高低群と産後の「QMI」の高低群との間に有意差が認められた($p < 0.05$)。つまり、夫婦共に妊娠期の「QMI」は、産後の「QMI」に影響すると考えられた。

以上のことから、妊娠期から産後の夫婦を支援するには、妻が満足と感じる夫の関わりに影響する要因に注目し、妊娠期から夫婦関係の満足度を高める必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 中島久美子、常盤洋子、「妊娠期の妻への夫の①わり満足感尺度」の信頼性・妥当性の検討、日本助産学会誌、査読有、27巻1号、2-14,2013

② Kumiko Nakajima, Sayaka Sawano, Kyoko Kunikiyo, Hiroko Arai, Kaori Tachiki, Tomoko Fukasawa, Kikuko Iwanaga, Yoko Tokiwa, Analysis of Multiparous couples' Perceptions of Husbands' Supportiveness for their Wives' Satisfaction during Pregnancy, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, Reviewed,63(1),51-59,2013

③ 中島久美子、常盤洋子、夫婦の認識から捉えた「妊娠期の妻への夫の関わり満足感尺度」の作成—因子的妥当性による質問項目の選定—、日本助産学会誌、査読有、26巻2号、166-178、2012

[学会発表] (計3件)

① 中島久美子、常盤洋子、早川有子、妻が満足と感じる夫の関わりと夫婦関係満足度との関連—妊娠期夫婦の調査—、第53回日本母性衛生学会学術集会、2012,11,16-17 (福岡)

② 中島久美子、澤野沙耶香、國清恭子、荒

井洋子、立木歌織、深澤友子、常盤洋子、上の子を持つ経産婦の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識、第59回北関東医学会、2012,9,27 (群馬)

③ 中島久美子、常盤洋子、夫婦の認識から捉えた「妊娠期の妻への夫の関わり満足度尺度」の信頼性・妥当性の検討、日本助産学会第2回(第26回)学術集会、2012.5.1-2 (札幌)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
中島 久美子 (NAKAJIMA KUMIKO)

研究者番号：50334107

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：

